

令和7年度 学校評価報告書
島根県立松江南高等学校

【4段階評価】 A:十分に達成できている状況、 B:概ね達成できている状況、 C:どちらかといえば達成できていない状況、 D:ほとんど達成できていない状況
【肯定的評価(%)】=わからない(実態が分からない)を除いた回答総数(①+②+③+④)における肯定的意見(①+②)の割合
【評価値】アンケート(回答) ①そう思う(良い)⇒4点、 ②大体そう思う(ほぼ良い)⇒3点、 ③あまりそう思わない(あまり良くない)⇒2点、 ④そう思わない(良くない)⇒1点、 ⑤わからない(実態が分からない)

教育目標	重点目標	分掌	学校評価実施項目	No.	学校評価質問項目	肯定的評価(%)			評価値			自己評価	学校関係者評価		
						保護者	生徒	保護者	保護者	生徒	保護者		評価	評価	概評
【校訓】 質実剛健・創造進取・和歌共栄	【教育目標】 グロースパル社会を生き抜く、その持続可能な発展に貢献する志の高い人材を育成する	【目指す学校像】 主体的・探究的な学びを推進し、地域の進学拠点校として信頼される学校	総務	1	学校業務運営 PTA活動	82.1	-	94.7	3.0	-	3.2	B	B	・学校業務運営について、教職員の間で業務内容の精選に課題意識があるようだ。マンパワーには限りがあるが、統制力ではなく、横の連携を活かした主体的な業務の推進が求められる。 ・生徒・保護者の主体的な業務の推進について、教員からの回答が比較的多いことが気になった。また、教員からの回答があるように、私立高校学習化による影響を考慮した早期の対応の必要性があると感じる。 ・探究科学科の学習実態を拝見すると素晴らしいと思うことが多く、それがどの程度、高校を退く中学生や校外に伝わっているかが分かり難い。探究科学科卒業後の進路や、大学卒業後の研究先、就職先など進路の道が見えてくるとまたポジションがしっかり決まってくるように感じている。 ・PTA活動についても、保護者の負担配に配慮した持続可能な形への移行を継続してほしい。 ・保護者からは部活動や日常の教育活動の様子をホームページやタイムリーに見たいという強い要望がある。教職員の負担増にならない範囲で、更新頻度を上げるための運用工夫(生徒による発信など)も検討の価値がある。 ・P A T活動、情報発信、振ね工夫。	
				2	生徒募集・入学 者選抜	95.8	-	-	3.2	-	-	B			
				3	情報発信	88.9	-	81.2	3.1	-	3.0	B			
		教務	4	主体的な学習活動	82.0	84.3	90.2	3.1	3.2	3.1	B	B			・基礎学力の定着に関して保護者の評価が昨年よりやや下がっているのが気になる。パソコンやタブレットを使うだけでなく、手で文字を書いて覚えるという学習習慣ももたないようにはしてほしい。 ・SSHについての効果や意義が不透明になってきているのかもしれない。 ・ICTの活用が定着し、授業改善が進んでいる点は評価できる。しかし、教職員の自己評価に對し、生徒・保護者の肯定的評価には依然として乖離が見られる。単なる「形式的なICT利用」に留まらず、生徒が自らの成長を実感できるように「真に主体的な学び」の仕掛け作りや、教科の枠を超えて追求してほしい。 ・個別指導による学力向上支援は一定の成果を上げているが、「読解力」や「思考力」といった根源的な力の育成は、貴校生徒にとって引き続き、重要課題である。保護者から求められるべき学習環境の整備や、授業改善委員会を中心とした教科横断的な取組を強化し、単なる知識習得ではない、これからの時代に必要と高い学力の定着を期待する。
			5	基礎学力の定着	86.5	82.8	83.8	3.2	3.1	3.1	B				
			6	基本的な生活習慣	63.0	70.6	68.0	2.7	2.9	2.8	B				
		生徒指導	7	規範意識	65.5	97.3	90.3	2.8	3.6	3.1	A	A			・基本的な生活習慣と規範意識に関しては、やはり学校だけでなく、学校と家庭が目標を合わせて生徒たちを見守り、指導していくことが必要だと思ふ。 ・「基本的な生活習慣」教職員の肯定的評価が低いのが、指導は十分されているのではないかと、結果が伴っていないから肯定できないのかもしれないが、高校生はいずれもそんなものだと思ふ。 ・いじめ対応 教職員より生徒・保護者の肯定的評価が高いことはいいことだと思ふ。教職員の皆さんは、自信を持って、より充実した対応をお願いしたい。 ・生徒に主体的な行動を促す試みはうまくいっているように見える。現在の高校生の多忙な生活を考えると時間管理の大切さはわかるが、厳格に求めるべきと、卒業後活動が来ることもあるので、緩やかに考えてもいいのではないかと。 ・沢山の苦悩が伝わる、努力されていると感じた。 ・時間管理に関する指導は継続されているが、生徒の主体的な行動変容には至っていない現状がある。生徒の多忙な生活実態に寄り添いつつ、学校全体で「何のための時間管理か」という目的意識を共有し、無理のない範囲で自律的なリズムを定めるような支援を望む。 ・進路決定はもとより進路に関する、生徒・保護者から求められるべき学習環境の整備や、授業改善委員会を中心とした教科横断的な取組を強化し、単なる知識習得ではない、これからの時代に必要と高い学力の定着を期待する。
			8	部活動への積極 的参加	98.2	89.8	91.5	3.3	3.4	3.3	A				
			9	いじめ対応	81.5	93.5	92.6	3.0	3.4	3.2	A				
		【育てたい生徒像】 ・豊かな感性を持ち、多様性を尊重する生徒 ・確かな読解力・思考力を持ち、主体的に学びを深める生徒 ・広い視野を持ち、課題や目標を見つけて挑戦する生徒	進路指導	10	計画的なキャリア教育	89.3	94.8	92.4	3.3	3.5	3.2	B			B
	11			実効的なキャリア教育	92.5	94.6	87.3	3.3	3.4	3.1	B				
	12			探究的な学び	81.8	93.7	91.7	3.2	3.4	3.2	A				
	教育実践	社会に開かれた 学び	13	「RAP」・「DS」・「総合的な探究の時間」等で、生徒が「探究的な学び」を進められるよう、校内での指導・支援体制を整え、実施できたか。	81.8	93.7	91.7	3.2	3.4	3.2	A	A	・探究的な学びについては、面談、HRでの進路学習や映像・Webを使った生徒自身の研究が充実し、良好である。 ・保護者の評価は87.3%と、やや低減。教員・生徒間でのやり取りが保護者には伝わりにくい点も原因。保護者面談を通じてその点を伝えることができるよう、資料を充実させたい。また、進路だけでなく、進路以外での進路学習も充実させたい。 ・全対象で評価が向上しており、探究の指導方針について校内での共通理解が深まりつつある状況といえる。今後はこの良好な傾向を継続させ、生徒の具体的な「学びやすさ」や「達成感」に繋げるための工夫が必要である。 ・年間計画の詳細提示と各プロセスの締切の可視化により、生徒が主体的に見通しを持って活動できる環境を整える。 ・「何ができればいいか(ルーブリック)」を生徒に分かりやすく提示し、結果だけでなく探究のプロセスそのものを肯定的に捉えられるよう動機付けを工夫する。		
			14	健康指導	98.1	86.6	-	3.4	3.1	-	A				
			15	環境美化意識	65.5	95.4	-	2.8	3.4	-	B				
	【本校の教育活動】 自立した学び・個別最適化した学び・多様な他者と協働する学び ～知の循環で一人ひとりのワクワクとWILL(意志・未来)を拓く～	保健	16	教育相談・特別支援	98.2	77.9	81.9	3.3	3.0	3.0	A	B	・教育相談・特別支援については、毎年、生徒や保護者より教職員の評価が高く、その差も大きい項目。重要な項目なので、少しずつでも着実に対応されることを望む。 ・有効な解決策がないと、消極的に教師・生徒の間での意識の隔たりが続いていくのではないかと、保護者に家庭でのしつけ指導を促すことはできないか。保護者より内容や特別支援の具体的な取組が伝わらない。 ・保健だより等を通じた多面的な情報発信が機能しており、生徒の健康意識向上に寄与している。 ・今年も、メンタルヘルスを含めた時期に応じた適切な啓発を継続し、生徒の健全な学校生活を支えてほしい。 ・清掃エリアの精選や指導基準の再確認など、限られた時間と人員で効率的に美化活動を行えるよう、ハード・ソフト両面からの見直しを期待する。 ・支援を要する生徒に対し、スクールカウンセラー等と連携した組織的な対応が徹底されている。 ・保護者への情報発信も適切であり、今後も担任との連携を一層強化し、多様なニーズを持つ生徒一人ひとりに寄り添った支援を継続してほしい。		
			17	図書活動	100.0	93.7	-	3.6	3.4	-	A				
			18	図書活動	100.0	91.6	-	3.6	3.3	-	A				
	【育てたい力】 ・読解力…情報を正しく読み取り、解釈し、理解する力 ・思考力…グローバルで幅広い視野と文理融合で柔軟に考える力 ・主体性…自らの意志で目標を決めて取り組む力	1年次	生徒理解と人権意識の高揚	19	生徒がお互いの個性を認め、豊かな人権意識を身につけることができるよう、指導に努めているか。	87.2	91.5	90.4	3.1	3.3	3.1	B	B	・全国的にスマホやタブレットでの短い打ち言葉になれる生徒が増えてきている。それとともに文字のみが記された長めの本を読み、2000字程度の文章を正しい日本語で書ける生徒も増えているのは、南高に限ったことではない。しかしSNSやネット検索に頼るこうした現状が続くと、大学生や社会人になったときにレポートや論文・書類を書くのに苦勞する。一年生のうちから本を読む、手書きで文章を書く習慣が身につくよう指導すべきではないか。紙質や評価の隔たりも気になる。 ・自慢の素晴らしい図書室をもっとアピールしてほしい！と思う。 ・教員上の満足度は非常に高いものの、読書感想文の提出状況や1年生の利用低迷など、実態としての「読書習慣の定着」には大きな課題が残っている。 ・探究学習(RAP)との接続をさらに強固にし、eポートフォリオ等も活用しながら、図書室を単なる学習場所ではなく、情報の収集・吟味を行う「知の拠点」として定着させる取組を期待する。 ・レポートや論文・書類を書くのに苦勞する。一年生のうちから本を読む、手書きで文章を書く習慣が身につくよう指導すべきではないか。紙質や評価の隔たりも気になる。 ・自慢の素晴らしい図書室をもっとアピールしてほしい！と思う。 ・教員上の満足度は非常に高いものの、読書感想文の提出状況や1年生の利用低迷など、実態としての「読書習慣の定着」には大きな課題が残っている。 ・探究学習(RAP)との接続をさらに強固にし、eポートフォリオ等も活用しながら、図書室を単なる学習場所ではなく、情報の収集・吟味を行う「知の拠点」として定着させる取組を期待する。 ・レポートや論文・書類を書くのに苦勞する。一年生のうちから本を読む、手書きで文章を書く習慣が身につくよう指導すべきではないか。紙質や評価の隔たりも気になる。 ・自慢の素晴らしい図書室をもっとアピールしてほしい！と思う。 ・教員上の満足度は非常に高いものの、読書感想文の提出状況や1年生の利用低迷など、実態としての「読書習慣の定着」には大きな課題が残っている。	
				20	学びに対する粘り強い姿勢	88.9	92.7	84.3	3.1	3.3	3.0	B			
				21	基本的な生活習慣の確立	82.2	93.6	87.8	3.0	3.3	3.1	B			
	2年次	生徒理解と人権意識の高揚	22	生徒がお互いの多様性を認め合い、理解し合い、豊かな人権意識を身につけることができるよう、指導に努めているか。	88.4	96.4	94.7	3.1	3.4	3.2	B	A	・今年度も家庭学習平日3時間、休日5時間を目標に掲げ、学年部主催で「日々の生活と学習の記録」を実施している。定期試験2週間前から配属用紙を配布し、学習計画・実際の学習時間、生活の振り返りなどをさせることで、計画的な学習への習慣化を図っている。昨年と比較すると、2週間前3.4h→2.6h、1週間前3.8h→4.7hと着実に学習時間も伸びている。学習に困難を感じる生徒への追加指導や、上位者部員も実施。「将来の生き方」に關しては、HRでの計画的な進路学習や個別面談、「進路だより」発行を通して段階的に情報を提供してきた。今後も個に応じた進路指導に努めていく。 ・今年度も家庭学習平日3時間、休日5時間を目標に掲げ、学年部主催で「日々の生活と学習の記録」を実施している。定期試験2週間前から配属用紙を配布し、学習計画・実際の学習時間、生活の振り返りなどをさせることで、計画的な学習への習慣化を図っている。昨年と比較すると、2週間前3.4h→2.6h、1週間前3.8h→4.7hと着実に学習時間も伸びている。学習に困難を感じる生徒への追加指導や、上位者部員も実施。「将来の生き方」に關しては、HRでの計画的な進路学習や個別面談、「進路だより」発行を通して段階的に情報を提供してきた。今後も個に応じた進路指導に努めていく。 ・多選制、多欠席の生徒もいるが、個々の状況に応じた面談や声掛けをしてきた。保健部との連携を大切に、保健部利用者数や保健室での様子などの情報共有することで、生徒の正確な現状把握に努めた。担任間での情報共有を強化し、状況に応じた教科担当者への情報発信なども適宜実施してきた。今年度から、毎週の学年会で生徒の情報を、副担任や学年主任の教員にもその都度配付している。今後も、情報共有を大切に、共通理解の下、学年部全体で生徒指導にあたる。		
			23	学びに対する粘り強い姿勢	93.0	96.0	89.6	3.1	3.4	3.1	A				
			24	基本的な生活習慣の確立	97.7	94.2	89.1	3.2	3.4	3.1	A				
	3年次	生徒理解と人権意識の高揚	25	生徒が多様性の理解を深め、人権意識を高める指導に努めているか。	97.9	94.9	93.1	3.2	3.4	3.2	A	A	・多面でも進路に関する3年生の活動はいつも時々思う。 ・人間関係のトラブルが減少し、生徒の人権意識が向上していることは、最上級生としての成長の証。生徒の自己肯定感を高める指導方針が功を奏している。 ・集大成の時期に向け、多様性を尊重し合う温かな集団の質を維持し、卒業後も社会を支える「和歌共栄」の精神を体現できる人材の育成を継続してほしい。 ・進路意識の個別指導には一定の成果が見られるものの、遅刻・欠席の抑制や学力層別の細かな課題対応にはさらなる工夫の余地がある。 ・進路意識の個別指導は一定の成果が見られるものの、遅刻・欠席の抑制や学力層別の細かな課題対応にはさらなる工夫の余地がある。 ・進路意識の個別指導は一定の成果が見られるものの、遅刻・欠席の抑制や学力層別の細かな課題対応にはさらなる工夫の余地がある。 ・進路意識の個別指導は一定の成果が見られるものの、遅刻・欠席の抑制や学力層別の細かな課題対応にはさらなる工夫の余地がある。		
			26	学びに対する粘り強い姿勢	91.7	98.3	93.9	3.1	3.5	3.3	A				
			27	基本的な生活習慣の確立	94.9	92.9	81.1	3.2	3.4	3.1	A				